

# 職業選択に関連する心理的諸要因

## ——志望職業間の比較検討——

北 田 隆

---

◆キーワード：

職業選択 (Vocational Preference)    意識構造 (Cognitive Structure)    志望職業  
(Desired Vocation)

### 問 題

職業選択に関連する要因として、従来、心理的諸要因、社会・文化的諸要因、社会・経済的諸要因等、様々のレベルにわたって、多くの要因が指摘されている (Crites, 1969 ; Super & Bohn, 1970 ; 広井・中西, 1976)。しかしながら、指摘されている要因の多様さに比べれば、実証研究は十分とは言えず、特に、それらの要因がどのように相互に関連しあいながら職業選択に影響しているのか、という観点からの研究はなされていない。

北田・石井 (1988) は、このような実情に鑑み、社会・文化的諸要因や社会・経済的諸要因は、職業選択に関連する意識構造を形成する心理的要因(成分)に影響を及ぼし、そして、個人は、その意識構造に基づいて、特定の職業への志向を形成してゆくとの想定の下に、多様な諸要因の体系的な究明が可能になると主張した。そして、そのような観点からのアプローチの第一歩として、職業選択に関連した意識を構成するいくつかの成分間の関連性を検討した。

そこでは、職業選択に関連した意識の成分として、志望職業に対する、主観的適合感、就職希望度、職業評価、知識、感情的評価（態度）、および一般的な職業価値観、職務遂行に必要な諸能力についての自己評価の七つを取り上げ、それぞれの成分内の構造を因子分析によって把握し、その後、クラスター分析とパス解析を適用することによって、それらの成分間の構造の究明が試みられた。その結果は、職業評価は、安定・名声評価と安楽性評価の2因子の、知識は、直接的情報と間接的情報の2因子の、自己評価は、他者に対する自信と自己に対する自信の2因子の、それぞれ、因子構造を持ち、そして、残りの全ての成分は、1因子のみから成っていることを示すものであった。成分間の関連性については、図1に示されるように、主観的適合感、感情的評価（態度）は、主として、間接的情報と他者に対する自信によって、感情的評価（態度）

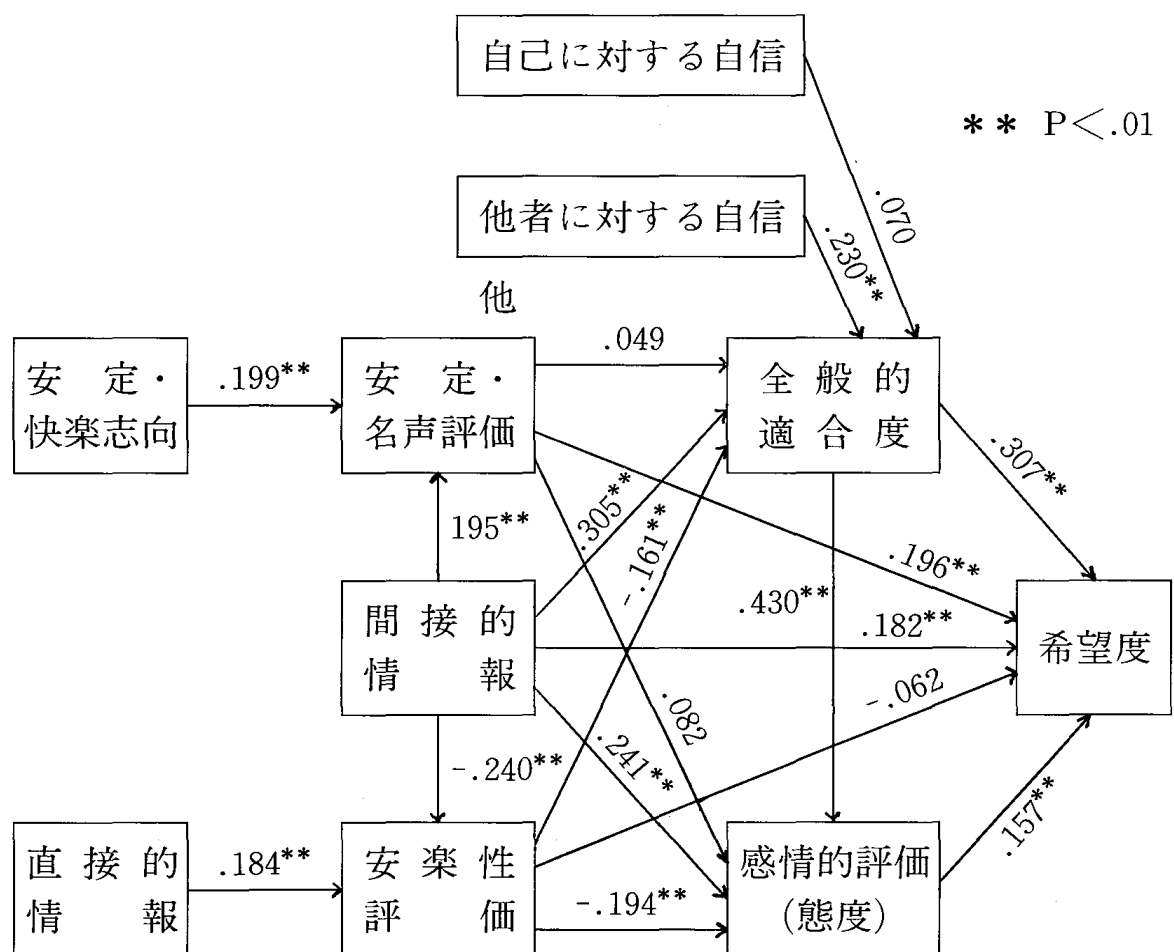


図 1 パス解析モデルと標準化パス係数

は、間接的情報と主観的適合感によって、そして就職希望度は、間接的情報と主観的適合感および感情的評価（態度）によって、それぞれ、規定されていることが示唆された。職業選択を巡る意識構造において間接的情報は特別に重要な位置を占めていることが明らかにされたのであるが、このことは、職業選択は、合理的な職業評価よりは、むしろ間接的情報による何らかの感覚的なイメージに基づいて行われているらしいことを示唆するものと解釈された。

本研究では、上記のような構造を形成する意識の各成分が、志望職業が異なることで、どのように異なっているのかが検討される。

## 方 法

### 調査時期と調査方法

昭和60年9月上旬の講義時間内に、集団法で調査を実施した。回答に要した時間は25分前後である。

### 調査対象

一般心理学（選択科目）を受講する私立の四年制大学経済学部の二年男子学生209名。

### 調査項目

先述した意識の成分のそれぞれに対応して、次のような項目を用意し、下記の順序で回答を求めた。なお、回答を明瞭にさせるという目的と志望職業の相違による意識の各成分の差異を検討するという目的から、冒頭において、各人の志望職業を記述させた。項目内容の詳細は、莊巖・北田（1986）を参照されたい。

1. 志望職業 現在、最も希望している職業を、できるだけ詳しく記入するという条件の下に、自由記述させた。

2. 適合感 能力、性格、興味や関心、そして全般的適合感の4側面における、各人の志望職業に対する主観的な適合感を、それぞれ7点尺度上に評

定させた。

3. **希望度** 志望職業に就くことを、どの程度強く希望しているかを、7点尺度上に評定させた。

4. **職業評価** 職業選択に際して考慮されと思われる基準(収入の多寡, 人気の有無, 個性・能力発揮の可能性, 安定性, 将来性, 国際性, 仕事が好き, 仲間と楽しく働けるか, 就職の難易, 健康を損なう心配の有無, 余暇を楽しめる可能性の11基準)について、志望職業を、それぞれ7点尺度上に評定させた。

5. **職業価値観** 志望職業を離れて、上記の11基準において、一般的に、どのような状態を理想とするかという観点から、それぞれ7点尺度上に評定させた。

6. **知識** 志望職業についての知識の多さや深さに、直接的、間接的に関連すると思われる6項目(志望職業について本や雑誌を読んだことがあるか、志望職業に就いている人が周囲にいるか、志望職業に就いている人から話を聞いたことがあるか、志望職業についてテレビ・ラジオ・新聞で見聞きしたことがあるか、志望職業について就職指導の先生と相談したことがあるか、志望職業の内容を知っているか)に対して、それぞれ5点尺度上に評定させた。

7. **態度** 志望職業に対する感情的評価に関連する6項目(魅力的, おもしろい, 好き, 楽しい, 華やか, 充実できる)に対して、5点尺度上に評定させた。

8. **自己評価** 職務遂行に関連すると思われる能力を、16の側面(言語, 数理, 書記, 空間判断, 形態知覚, 運動共応, 指先の器用さ, 感情統制力, 意志力, 対人関係能力, 創造力, リーダーシップ能力, 記憶力, 一般的理解力, 説得力, よい印象を与える能力)について7点尺度上に評定させた。

## 結果と考察

自由記述させた志望職業名は62種のものにわたるが、それらを小川・田中(1979)の職業分類に準じて、公務員(N=11)、会社の一般事務員(N=25)、営業・セールス(N=15)、旅行関係(N=13)、マスコミ関係(N=11)、自営業(N=10)、教師(N=8)、自動車関係(N=8)、銀行員(N=7)、音楽関係(N=7)、警察官(N=6)、店員(N=6)、鉄道関係(N=5)、その他(N=36)の14カテゴリーに分類した。これらのうち志望人数が10名以上の6カテゴリーを取り上げ、志望職業別に上述の測度および就職希望度の平均値をみたものが、表1である。

### 自己評価

自己に対する自信については、志望職業を問わず全般的にある程度の自信が持たれているが、カテゴリー間に差は認められない。同様に、他者に対する自信についても、全体的にある程度の自信が持たれており、カテゴリー間の差は大きくはないが、そのなかにあって、営業・セールスや旅行関係の自信は相対的に高く、逆に、公務員や一般事務員の自信は相対的に低くなっている。対人的な能力や興味を必要とする営業・セールスや旅行関係を志望する学生の他者に対する自信が相対的に高くなっていることは、自己評価をある程度踏まえた上で職業を選択していることを示すものである。

### 職業価値観

カテゴリー間に差はなく、おしなべて高い安定・快楽志向がみられる。これは、大学生の(殊に私立の大学生)の比較的強い安定性志向と私生活優先の傾向(NHK放送世論調査所, 1979)を反映したものであろう。

### 知 識

直接的情報については、自営業が際立って多く、次いで営業・セールスが多くなっているのに対して、マスコミ関係や旅行関係は少ない。特に、マスコミ関係の情報量の少なさが目立っている。自営業の直接的情報が一際高くなっているのは、自営業の場合、親の後を継ぐことが多いためであろうし、

表 1 志望職業毎の各成分の平均値

	自己に 対する自信	他者に 対する自信	安定・快 楽志向	直接的 情報	間接的 情報	安定・名 声評価	全般的 適合感	感情的 評価(態度)	希 望 度
公 務 員 (N=52)	4.39	<sup>a</sup> 4.09	6.54	<sup>a</sup> 2.82	2.58	<sup>a</sup> 5.43	<sup>ab</sup> 4.72	<sup>a</sup> 2.80	4.62
一 般 事 務 員 (N=25)	4.52	<sup>ab</sup> 4.14	6.48	<sup>a</sup> 2.58	<sup>a</sup> 2.29	<sup>b</sup> 4.46	<sup>b</sup> 4.58	<sup>a</sup> 2.89	4.52
営業セールス (N=15)	4.83	<sup>c</sup> 4.92	6.62	<sup>ac</sup> 3.40	<sup>b</sup> 2.80	<sup>a</sup> 5.15	<sup>ac</sup> 5.22	<sup>b</sup> 3.42	5.00
旅 行 関 係 (N=13)	4.62	<sup>bc</sup> 4.54	6.79	<sup>ab</sup> 2.27	2.56	<sup>a</sup> 5.75	<sup>c</sup> 5.63	<sup>c</sup> 4.15	5.46
マスコミ関係 (N=11)	4.68	4.43	6.39	<sup>b</sup> 1.73	<sup>b</sup> 3.09	<sup>a</sup> 5.29	<sup>c</sup> 5.59	<sup>d</sup> 4.33	5.09
自 営 業 (N=10)	4.20	4.48	6.73	<sup>c</sup> 4.35	2.63	<sup>c</sup> 3.64	5.13	<sup>bc</sup> 3.55	4.80

注) 数値が大きいほど、それぞれ、自己および他者に対する自信、安定・快楽志向が強く、直接のおよび間接的信息が多く、安定・名声評価、安楽性評価、全般的適合感、感情的評価(態度)、希望度が高いことを示す。  
異なる英文字を添えた平均値間には、5 %水準の有意差(Ryan法)が認められる。

営業・セールスの直接的情報が比較的多いのは、営業・セールスの職務内容から考えて、日常生活の中でそれらの職業に従事する人々に接触する機会が多いためであろう。逆に、マスコミ関係や旅行関係が少なくなっているのは、これらの職業の就労者の絶対数が少なく、したがって具体的な接触を持ちにくいことを反映していると思われる。他方、間接的情報については、全体的に情報量は多くはないのであるが、相対的に、営業・セールスとマスコミ関係は多く、逆に、一般事務員は少なくなっている。マスコミ関係や営業・セールスの情報量が多いのは、これらの職業はマスコミに登場することが多いためであろうし、反対に、一般事務員が少なくなっているのは、この職業はあまりにも一般的なものであるので積極的な情報収集が行われなかったためかも知れない。

### 職業評価

まず、安定・名声評価について、全体的に比較的高い評価を示しているなかであって、自営業の評価の低さが目だっている。これは、自営業の場合、安定性も名声もすべて自分の力量で獲得しなければならず、組織によって保障されないということが、圧倒的に多い直接的情報に基づいて自覚されているためであろう。逆に、旅行関係、公務員、マスコミ関係、営業・セールスで安定性評価が高いのは、大手企業を念頭にそれらの職業を志望しているためであろうか。そして、それらの四つの職業のうち旅行関係を除けば、いずれも男子大学生に好まれる職業（舘・松本・渡辺・松本，1984：中西・那須，1980）であり、また、旅行関係は国際性があり就職が難しいことなどから、名声評価が高くなっているのもであろう。他方、安楽性評価については、公務員が一際高く、次いで一般事務員が高くなっているのに対して、マスコミ関係、自営業は低くなっている。安楽性評価についてのこのような高低関係は、ほぼ常識的に納得しうるものであろう。

### 全般的適合感

志望職業を問わずある程度以上の適合感が示されているのであるが、旅行関係、マスコミ関係、営業・セールス、自営業に比べれば、一般事務員と公

務員の評価はかなり低くなっている。全般的適合感の場合と同様、特定化された職業を志望するものの感情的評価（態度）は高くなっているが、さらに、外見の華やかさに比例して評価が高くなっているようである。

## 希 望 度

志望職業を問わず希望度はかなり高いのであるが、そのなかで、旅行関係の希望度は一段と高く、逆に、一般事務員と公務員の希望度は相対的に低くなっている。希望度の場合、公務員と旅行関係の間、および一般事務員と旅行関係の間に傾向性が認められるのみであり、他のいかなるカテゴリー間にも有意差が認められないが、希望度の高さについての志望職業間の順位は、適合感での順位および感情的評価（態度）での順位とほぼ対応している。

## 結 語

北田・石井（1988）において見出された職業選択に関連した意識構造を形成する10の成分毎に志望職業間の比較を行なったが、公務員と一般事務員、殊に公務員では、安楽性評価が高い反面、他者に対する自信、適合感、感情的評価（態度）、就職希望度などが低い。他方、マスコミ関係、営業・セールス、旅行関係、自営業などのより特定化された志望職業では、安楽性評価は低い反面、逆に、他者に対する自信、適合感、感情的評価（態度）、就職希望度などが高くなっている。これらのことは、公務員や一般事務員を志望する者の、就職に対する消極的な姿勢を、また、後者のような特定化した職業を志望する者の積極的な姿勢を、それぞれ、反映したものと思われる。

本研究で検討された成分が構成する、職業選択に関連した意識構造では、前述のように、間接的情報が特別に重要な位置を占めていたのであるが、これは、被調査者が四年制大学の二年生であり、未だ就職をそれほど意識していなかったかもしれないことに起因している可能性がある。この可能性と合わせて、上記の、就職に対する姿勢の積極性・消極性をもたらすものを、様々な属性の異なる被調査者に対する調査を実施することによって検討すること



が必要であろう。

引用文献

- Crites, J. O. 1969 *Vocational Psychology*. McGraw-Hill.
- 北田 隆・石井 徹 1988 職業選択を巡る心理的諸要因の関連性—ある私立文科系大学生を対象として—経営と人事管理, 通巻286号, 36-41.
- 広井 甫・中西信男 1978 学校進路指導—その基盤と現実的諸問題—誠信書房
- 中西信男・那須光章 1980 進路を決める 有斐閣
- N H K 放送世論調査所編 1979 日本人の職業観 日本放送出版会
- 小川一夫・那須光章 1979 父親の職業が息子の職業選択に及ぼす影響に関する研究 教育心理学研究, Vol. 27, No. 4, 272-281.
- 莊巖舜也・北田 隆 1986 職業選択をめぐる意識の諸側面—専門学校学生を対象として—大阪学院大学人文自然論叢, 第13巻, 85-103.
- Super, E. D., & Both, Jr. M. J. 1970 *Occupational psychology*. Wadsworth.
- 舘 暁夫・松本真作・渡辺三枝子・松本純平 1984 現代大学生に見る職業志向性の一側面 雇用職業研究, No. 21, 29-38.

(愛知学泉大学経営学部助教授)

平成元年 5 月 11 日受理